

台風研究の最前線

今年は東海地方に甚大な被害をもたらした伊勢湾台風から50年目にあたります。近年、台風による被害は大幅に減少しました。これには観測や予報技術を含めた台風研究の成果が大きく貢献しています。しかし、依然として台風が大きな被害をもたらしていることも事実です。台風による被害を減らしていくには、台風や台風予報に関する従来の固定概念にとらわれることなく、最新の台風に関する知識や最前線で進められている研究を良く理解したうえで、対策をすすめることが重要です。そこで、今回の公開気象講座は「台風研究の最前線」をテーマにします。第11回と同じテーマですが、今回は前回取り上げていない、台風発生に関する最新の観測事実、台風発達に関する詳細な数値シミュレーション結果、また新たな研究成果を取り込んだ最新の台風予報に関する内容を取り上げます。日々進歩する台風研究の最前線にふれてみませんか？

日時：2009年8月25日(火) 13:00～16:00 (開場12:30)
場所：名古屋大学野依記念学術交流館(2階カンファレンスホール)

プログラム

1. 開会の辞 13:00～13:10
牧原康隆(名古屋地方気象台長、気象学会中部支部長)
2. 「熱帯海洋上で発生する台風の観測研究」 13:10～14:00
山田広幸(海洋研究開発機構地球環境変動領域 研究員)
3. 「コンピューターで台風の暴風雨はどこまで再現できるか」 14:00～14:50
坪木和久(名古屋大学地球水循環研究センター 准教授)
- 休憩 14:50～15:00
4. 「台風予報の最新技術」 15:00～15:50
萬納寺信崇(気象庁地球環境・海洋部 海洋気象情報室長、
前太平洋台風センター所長)

申し込み方法：直接会場にお越し下さい

定員：200名

受講料：500円(テキスト代込み)

主催：日本気象学会中部支部・

名古屋大学地球水循環研究センター

後援：名古屋地方気象台・日本気象協会

問い合わせ先：名古屋市中区日和田2-18

名古屋地方気象台内

日本気象学会中部支部

公開気象講座事務局

電話：052-751-5124

URL:<http://www.msj-chubu.jp/koukaikouza.html>

